



信太の森ニュース

No. 28

2017年12月31



あけましておめでとうございます。

自然公園づくりをはじめてまる三年が経過しました。
一部開園まで後7年と まだ遠い道のりですが、力を
併せて今年も頑張りましょう。



自然公園予定地から金剛山が展望できる唯一場所がみつかりました。写真：吉原さん提供

昨年の保全活動時に展望台予定地
(次頁図-△印) から尾根筋をゲート
寄りに200m辺りに金剛山が展望で
きる場所がみつかりました。それは尾
根筋を少し外れたところにあります。
そこからは、蔭涼寺の菜園と桃池も見
え「ここに展望台を作ろうよ」という

話しになりました。

当初予定地について、市委託のコン
サルの話しでは、予定地は傾斜が緩く
展望台を作るには不向きとのアドバイ
スもあり、調整会議でも金剛山が見
えるその位置に作ろうという話しになっ
ています。次頁図-※印

NPO法人 信太の森FANクラブ
事務局：〒594-0013 大阪府和泉市鶴山台3丁目4番1-202
電話 0725-45-7357
E-mail tamahati@amber.plala.or.jp

自然公園の進捗状況

公園協議会による信太山丘陵の保全活動は30数年間放置され、笹藪と悪戦苦闘しながら切り開いてきました。それが下図黄色線で囲まれた部分です。これでも草地復元予定地の7割位でしょうか。

ネザサは刈っても刈ってもすぐ伸びてきます。二次刈りでは、刈払機を使う人はネザサも細いので刈り払うには少しは楽になります。しかし、刈りとった笹を運ぶ人たちにとっては同じ作業の繰り返しに少々うんざり感が漂いはじめていました。

こうしたことを踏まえ「保全活動をもっと楽しいものに」しようと今年度は「里山講座」に他の里山活動見学（堺自然ふれあいの森）や保全活動の中に自然の素材を使ったクラフトなども取り入れていこうと富田林のNPO法人里山倶楽部の寺川さんを講師にリース作りやゲームのやり方などを教えていただきました。このクラフトは早速12月の活動日に前半は保全活動を、後半は葛の蔓を使った籠作りを行いました。

ネザサ対策については、これまでネザサの根掘りにコンボ導入の予算確保をと利用調整会議で要望し、今年度は僅か50㎡ですが予算が確保され、1月頃に実施される予定です。



管理棟予定地○ 展望台△当初 ※予定地

公園協議会内に自主作業グループ発足

保全活動日の午後から開催される利用調整会議の場で、一般市民参加者から「定例活動日以外で自主的に作業はできないのか」との意見が出されました。

月一回の保全活動だけではネザサ刈りに追われ、園路の除草、倒木処理などができなと感じている筆者（一般市民委員として公園協議会に登録されています）は、FANクラブとしてではなく一般市民委員として、基本構想に沿い、協議会が認める範囲内の作業を実施するという事で協議会の中に自主作業グループを認めてはどうかと諮り、それが認められました。

グループ登録者は現在6名ですが、11月から月一回の活動をはじめています。

夢ここフェスタに協力

12月3日（日）信太中学校校区の“夢ここフェスタ”が信太中学校で催されました。この催しは毎年12月の第一日曜日に開催されているもので、フェスタの一つのプログラムとして地域の史跡や施設などを巡るスタンプラリーを行っており、今年は信太山丘陵をコースに観察を兼ねた案内をと信太中学校区地域教育協議会長より依頼がありました。

当日は公園協議会の活動日に当たっていましたが、自然公園に向けた公園協議会の保全活動風景も見て貰えることができPRにもなることから引受けることとし、5月に実施した鶴山



夢ここフェスタの参加者を案内：惣ヶ池湿地

台北小学校の出前授業実施経験者5名の方にお願ひして、その任に当たっていただきました。

当日の参加者は約70名（うち子ども約50名）と盛況で、惣ヶ池公園（集合）～惣ヶ池～惣ヶ池湿地～保全活動場所を案内し、参加したみなさんには大変喜んで貰えることができました。案内役スタッフの方々ご苦勞様でした。

大阪自然史フェスティバルに参加

11月18日、19日長居の大阪市立自然史博物館で「大阪自然史フェスティバル 2017」が開催されました。信太の森FANクラブとしては3年振りの参加になります。

今回のブース展示は、公園協議会による里山保全活動の様子を中心に展示し、参加チラシ50部や「信太山丘陵の自然ガイド（秋・冬）編」100部を配布して保全活動への参加を来場者に呼びかけました。

前記ガイドは人気があったのか、ブース当番をはじめて経験した会員によればあつと言う間に無くなったと言っていました。

今回の出展では、事務局不在のなか吉原さんを中心に9名の方にブース当番をしていただきました。ありがとうございました。その中には初体験の方5名が頑張っていたいただきました。ご苦勞さまでした。



大阪自然史フェスティバル展示ブース

オオスズメバチの巣のその後

9月の観察会で「スズメバチ／リスクマネジメント」で注意を促したその日に惣ヶ池湿地で参加者の一人がスズメバチに刺されたことは前号「信太山丘陵の危険な生きもの」でお知らせしました。

その後ハチの巣の所在不明のまま10月8日の保全活動日を迎えたのですが、その日に会員のKさんから「ハチが出入りしてますよ」と知らされ、確認に行くと惣ヶ池湿地のほぼ中央でそれは見つかりました。畦道沿いの斜面1mのところそれはありました。

地中に巣を作っていることからオオスズメバチと思われます。巣の所在が判明し、そのうち防護服を借りてハチの巣を処分するつもりで取敢えず湿地内への「立入禁止」の札を貼り、ハチの活動がおさまるのを待って巣の処理をすることにしました。

今シーズンは水鳥が少ない

冬鳥の観察シーズンですが、どうしたことか今シーズンは水鳥が非常に少ない状況が続いています。

11月の上旬頃までは順調で、大野池でカンムリカイツブリも観察され、11月7日には大野池（桃池側）で200羽を越える水鳥が確認されました。しかし、数日後に行ってみると30羽くらいに減り淋しい状況が続いています。

惣ヶ池もシーズン初めからオオバンが10数



大野池にやってきたカンムリカイツブリ

羽いるだけで野鳥ファンにとっては淋しい状況が続いています。水鳥のシーズンが終わった訳ではないので、残りの3ヶ月に期待したいものです。

惣ヶ池湿地一部土砂で埋まる

台風20号、21号による大雨で岸和田の牛滝線や和泉市内でも土砂災害が発生しました。その大雨の影響は惣ヶ池湿地でもありました。湿地の一部が土砂で埋まったのです。

湿地の南端に水の落ち口と水場がありますが、水場の底の土砂が抉られ、その土砂が押し出されて水場から約2m位の範囲に広がり、サギソウの植栽実験地などが埋まりました。

後日その土砂を取り除いたところバケツに20数杯分の土砂の山ができました。今シーズン植栽したサギソウは3本開花してくれましたが、来シーズンの生育が気になります。

シソクサの種の保存

公園協議会9月の里山講座で大阪自然史博物館の佐久間大輔先生に「丘陵地における植生及び自然・文化・歴史を学ぶ」というテーマで講義をいただき、その後の質問時間に大阪府大の藤原先生より「自然史博物館の植物園でシソクサの種を保存して貰えないだろうか」との質問が出されました。その場では「植物園を持っている大阪市大に聞いてみられたら？」との回答でした。

以前に藤原先生にシソクサの棲息状況を話していたことが今回の質問となったのですが、その後の活動日に「シソクサの種は大阪府大で預かることにしました」との話がありました。

その後今シーズンに採取したシソクサの種の一部を藤原先生に渡し、大阪府大で預かって貰うことにしました。

観察日記

やっと見つけたウンヌケモドキ

名前は忘れましたが、前代表の花田先生から信太山丘陵でイネ科の植物のウンヌケモドキについて研究された先生がおられるという話を聞いたことがあります。

ウンヌケモドキがどんな植物なのか分からず、そのときは「そんなものがあるんだ」という程度の認識でした。

自然公園造りをはじめ、丘陵市有地内の湿地植物の定期調査の話を持ち上がり、平成21、22年に和泉市が実施した「信太山丘陵市有地内の調査」記録を見る機会があり、特定の場所にウンヌケモドキ（大阪府 絶滅危惧Ⅱ類）というまだ見たこともない植物の記録がありました。

図鑑で見るとススキのような植物で、草原に生え、穂の数が2～5本とススキより少なく、背丈が50cm程度の植物です。

2年間前から探し続けてきましたが見つけることができませんでした。

その記録にある狭い特定の場所で今年やっとそれが見つかりました。

湿地植物のカモノハシに似た植物が目に入り、これはなんだ？と穂に触ってみると展開する前のススキに似た穂でした。葉の付き方がススキとは違い、葉の付け根や鞘に毛があります。

これがウンヌケモドキだったのです。やっと見つけることができました。ススキの株と一緒にあり見分けがつかなかったのです。

一度特徴を捉えるとススキと混生していてもわかるんですね。数日後、惣ヶ池湿地からの帰りに、いつも通る丘陵部の道端で叢生したウンヌケモドキが3株みつかりました。

ウンヌケとは牛の毛が転訛したもので、愛知地方の方言だそうです。別名コカリヤスともいいます。



ウンヌケモドキ
(コカリヤス)